

環境調査結果のお知らせ

令和7年7月10日9時から浦ノ内湾の環境調査を実施しました。

概況

検鏡の結果、魚類に対して有害なディクチオカ属が最高で5 cells/mL、ケラチウム属が最高で103 cells/mL確認されました。ケラチウム属は100 cells/mL以上で、養殖魚の餌食悪化が懸念されますので注意してください。

中学校前並びに光松及び大鹿漁場において、表層水温が30°Cを超えています。また、水試小割前を除くすべての調査定点において底層が、中学校前では底層に加えて10 m層が貧酸素状態になっていますので注意してください。

海や養殖魚、貝類の状態に不安や変化を感じた時は、良く洗ったペットボトルに海水を汲むなどして、水産試験場か中央漁業指導所まで連絡してください。

調査点 (透明度) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン		
	深度	水温	塩分	溶存酸素	ディクチオカ	ケラチウム	珪藻
	(m)	(°C)		(mg/L)	属	属	
A 鳴無 (2.4m) 【09:19】	0	29.6	27.6	8.4	0	7	-
	2	27.4	30.4	6.3	0	21	-
	5	25.4	30.8	4.2	5	49	-
	底層 8	24.8	30.9	1.5	1	103	-
B 中学校前 (4m) 【09:25】	0	30.6	29.2	7.8	0	29	5,800
	2	27.7	30.3	7.2	0	39	1,700
	5	25.9	31.0	5.5	0	13	300
	10	25.2	31.3	4.8	0	14	2,950
	底層 11	25.0	31.3	3.4	0	16	2,500
C 目ノクソ (3.3m) 【09:33】	0	29.7	29.8	7.5	0	17	8,900
	2	27.7	30.7	7.5	0	27	4,150
	5	26.6	31.3	7.6	0	11	2,150
	10	26.5	31.8	5.7	0	10	1,050
	底層 14.5	25.1	31.6	2.4	0	12	1,250
D 光松 (4m) 【09:46】	0	30.5	29.3	7.9	0	13	6,500
	2	28.4	31.1	8.0	0	18	4,500
	5	27.5	31.7	8.1	0	25	3,700
	10	26.6	31.9	5.4	0	8	1,000
	底層 16	24.5	31.6	0.6	0	0	500
E 大鹿 (4.2m) 【09:53】	0	30.3	29.6	7.6	0	7	5,200
	2	28.3	31.0	8.1	0	12	11,400
	5	27.5	31.6	8.1	0	25	5,600
	10	26.4	31.9	5.1	0	4	1,150
	底層 15.5	24.5	31.6	0.4	0	0	80
F 水試小割前 (4m) 【10:02】	0	29.9	30.2	7.7	0	4	8,400
	2	28.3	31.8	7.7	0	0	6,600
	5	27.7	32.1	7.2	0	2	2,900
	底層 8	27.6	32.2	6.9	0	13	850

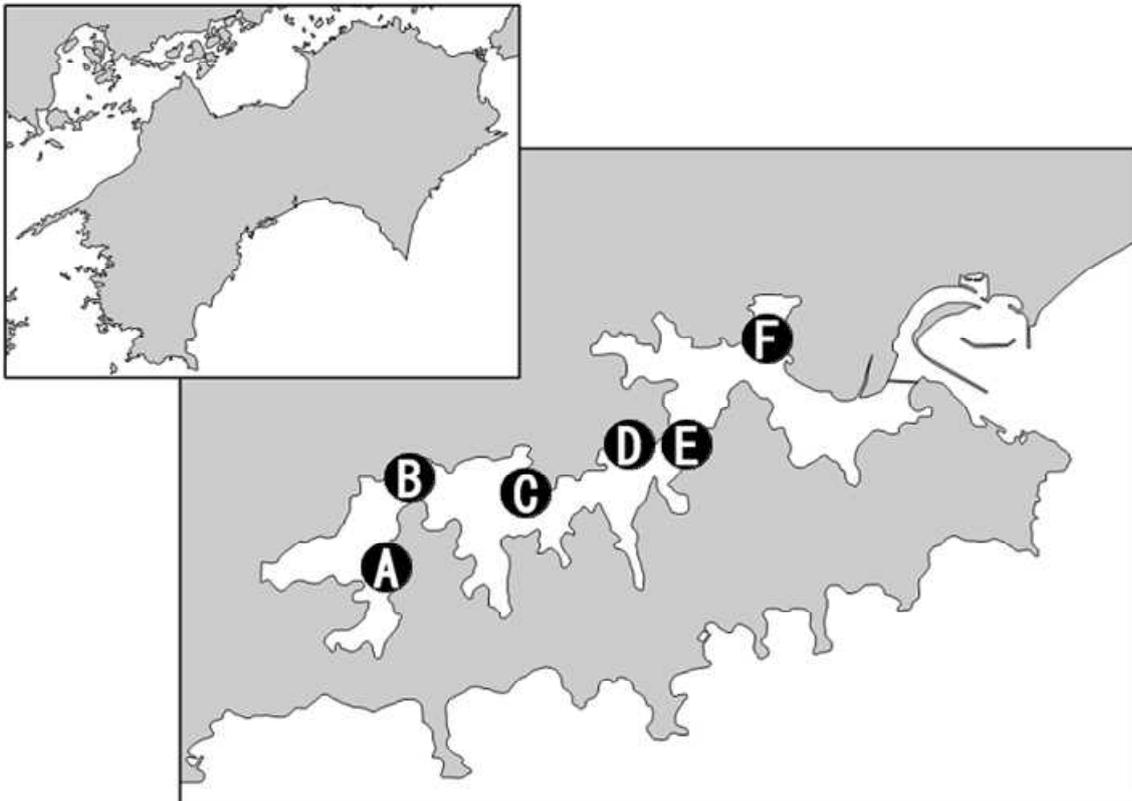
参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準

有害プランクトン	被害	注意基準（※1）	警戒基準（※2）	主な赤潮発生時期 ※3
				浦ノ内湾
ディクチオカ属	魚類等のへい死	—	5,000 cells/mL	6～7月
ケラチウム属	魚類の餌食い悪化	100 cells/mL	—	—

※1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度

※2 警戒基準：魚類及び二枚貝のへい死並びに二枚貝の毒化が想定される密度

※3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。



A: 鳴無

B: 中学校前

C: 目ノクソ

D: 光松

E: 大鹿

F: 水試小割前